

第155回日本ユネスコ国内委員会総会

次世代ユネスコ国内委員会の活動報告

次世代ユネスコ国内委員会
2024年9月6日



本日は、ユースフォーラム開催の計画と民間企業との連携について御報告

ユースフォーラム開催の計画

- 今年12月1日に開催するユースフォーラム開催の現時点の計画について次世代ユネスコ国内委員会より御説明し、委員の皆さまから御意見をいただく

民間企業との連携

- 民間企業との連携に向けた説明用資料について次世代ユネスコ国内委員会より御説明した後、民間企業との連携に関する戦略等について御助言をいただく

本日のアジェンダ

ユースフォーラム開催の計画

民間企業との連携

規模やインパクト等の観点で次世代ユネスコ国内委員会最大のイベントとなるユースフォーラム開催の計画について本日は御報告する

次世代委員会
最大のイベント

ユースフォーラムの開催

日時 : 2024年12月1日（日）
テーマ : 「今から、ここから、わたしから」
～ユースが集い、創るユネスコ活動の未来～

ソーシャルメディアでの発信

次世代委員会やユネスコに関わるユースの活動をソーシャルメディア（Youth note, Facebook等）で発信し、委員会の知名度を高めていく

分野ごとの活動の成果（ネットワーク含む）をユースフォーラムに繋げていく

教育分野

- ・ **関西地区**でESD教育等に関するイベント*を開催し、ユース世代にとって望ましい学びを再考
- ・ ユネスコ活動に係る他のユースとの協力関係強化のため、**ユネスコクラブ**と連携し**イベント**を開催
- ・ **第5回ユネスコスクール関東ブロック大会**において**ワークショップ型の分科会**を開催し、教育関係者との関係性を構築

ユース世代にとって望ましい教育について、教育に関わる多様なステークホルダーと考えていく場をつくる

科学分野

ジオパーク

- ・ 日本ジオパークネットワークと連携し、ジオパークに関わる**ユース世代のコミュニティ**を構築
- ・ **糸魚川ジオパーク**と共同で、ユース向けソーシャルメディア戦略を立案・実践

エコパーク

- ・ **日本ユネスコエコパークネットワーク**と連携し、エコパーク等に関わる**ユース世代が繋がる機会**を醸成

ジオパーク・エコパークの認知度を高め、そこに関わるユース世代の横のつながりをつくる

文化分野

創造都市

- ・ **創造都市**関連イベント等への参加ユースとの**ネットワーク**を構築
- ・ 創造都市を対象に**アンケート調査**を実施し、ユースを取り込んだ街づくりに関する**創造都市側のニーズ・課題**を特定し、連携方策を検討

世界の記憶

- ・ 世界の記憶に関する専門家・研究者を招き、**ユース向け勉強会**等を開催

ユネスコ文化分野の創造都市等の認知度を高めつつ、ユースの取り込みに関する方向性を決める

ユネスコウィーク最終日にユースフォーラムを開催し、現在ユネスコ活動を行っているユース間のつながりを強化することを主題にハイブリット形式で開催する

ユネスコウィーク（2024/2025）

開催概要

世代・地域・分野を越えたユネスコ活動の連携強化と新たな協働機会の創出

開催日程とプログラム

11/29(金) 国際シンポジウム

11/30(土) ユネスコスクール全国大会

12/1(日) ユースフォーラム

会場

・オリンピック記念青少年総合センター

・オンライン配信

想定参加人数

参加登録：1,200人/当日参加：750人

主催

文部科学省

日本ユネスコ国内委員会

ユネスコ・アジア文化センタ（ACCU）

Youth Forum 2024/25 「今から、ここから、わたしから」 ～ユースが集い、創るユネスコ活動の未来～	
概要	ユネスコ活動に取り組んでいるユース及びユネスコ活動に関心のあるユースが集い、意見交換をしながらネットワークを構築する場
主な対象者	ユース世代* ・全国各地でユネスコ活動に取り組んでいるユース ・過去に学校などでユネスコ活動に取り組んでいたユース 先輩世代* ・ユネスコ活動関係者 ・教育関係者 ・その他ユース世代のユネスコ活動に関わる関係者
想定参加人数	参加者数：230名（会場70名／オンライン160名） （過年度）155名（会場48名／オンライン107名）
プログラム	次ページ以降で詳述

*イベントの目的を明確にするためユース世代と先輩世代とを分けているが、両者間の明確な線引きは設定しない。
ただ、本イベントではユース世代を15～30歳半ばの学生及び就労経験が10年未満程度の社会人を想定している。

5

全体会、分科会通して参加者同士で交流し、学びや知見を共有できるデザインとする

9月6日時点の計画であり、今後内容を精緻化していく

	全体会①	分科会A【教育】	分科会B【防災】	分科会C【まちづくり】	全体会②
タイトル	ユースによるユネスコ活動のこれから	あなたにとってより良い学びとは？ ～未来を描く教育へ～	ユネスコの視点で防災を学び、実践する～未来に生きる防災～	ユースと共に考える「我がまち」の未来～ユネスコ創造都市ネットワークを事例に～	これまでのユネスコ活動を継続・発展させていくヒントを得るワークショップ
形式	- 基調講演 - パネルディスカッション	- レクチャー - 体験型ワークショップ	- レクチャー - 体験型ワークショップ	- 事例紹介 - ワークショップ	- ワークショップ - トーク・フォークダンス
登壇者	- 話題提供者：1名 - モデレーター：1名 - パネリスト：2名	- ESD関係者：1名 - ユース世代：2名	- 防災担当のユネスコ職員：1名 - 災害経験者：1名 - 防災サービス提供者：1名 - ユース世代：1名	- 創造都市に関わるユース：1～2名 - 創造都市担当のユネスコ職員：1名 - ユース世代：1名	社会貢献を主業（例：民間企業/NGO/国連機関等）とする方、副業とする方：5～6名
内容	1. モデレーターよりパネリストの紹介、趣旨説明 2. 話題提供者による基調講演 3. パネリストを交えたパネルディスカッション 4. フロアとの対話	1. ESD関係者による教育分野の情報提供 2. ワークショップ（自分にとってより良い教育とは/ワクワクできる学びとは、等） 3. まとめ	1. ユネスコ職員による防災分野の話題提供 2. 防災サービス提供者による防災ワークショップ「仮題：災害発生後のサバイバル」 3. まとめ	1. UCCN*加盟都市で活動するユースの活動事例発表 2. 自らの「まち」の魅力や創造性について語り合うワークショップ 3. まとめ	1. 「これまでの活動に関する履歴書」の作成・シェア 2. 登壇者によるプレゼン 3. ユース世代と登壇者間の対話・気付きのシェア 4. キャリアに関するトーク・フォークダンス** 5. まとめ
対象者	ユースフォーラム参加者全般	教育に関心のある方全般	防災に関心のある方全般	まちづくりに関心のある方全般	ユースフォーラム参加者全般
目的	- ユースによるユネスコ活動参画に対する期待の整理 - ユネスコ活動に関わるユース世代の声の発信	- 教育の未来・あり方についての議論 - 教育関係者間の横のつながりの構築	- ユネスコによる防災に関する取組の認知度の向上 - 自然災害との向き合い方の実践的な学び	- 創造都市に関わるユース間の横のつながりの構築 「まちづくり」に関する世代を超えた対話の促進	- 活動動機の再認識 - キャリアに関するユース-先輩世代間の双方向的な学びの促進

*ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN：UNESCO Creative Cities Network）のこと

**フォークダンスのように次々と相手を変えて対話をする方法のこと。本イベントでは、会場内の先輩世代とユース世代がキャリアに関する複数のお題について2～3分で語り合うことを想定。

①ユース世代の参加者を増やすこと、②ユース世代と先輩世代との対話機会をつくること、③出席者の多様性を豊かにすること、の3つの課題に対応する

1. ユース世代の参加者を増やすこと

- ⑦ ワークショップ・グループディスカッションにおける参加者は、登録ベースでユース世代30名、先輩世代133名であり、ユース世代の参加者が多くはなかった
- 教育現場へのアプローチだけではなく、学生への直接的なアプローチも必要

今年度の対応

- ユースフォーラム半年前から広報を開始
- ユース関連団体などにアプローチ

ワークショップ・グループディスカッションにおける参加者

	会場	オンライン	計
ユース世代	17	13	30
大人世代	39	94	133

2. ユース世代と先輩世代との対話機会をつくること

- 今回のユースフォーラムでは、「ユースが主役」と位置付け、ワークショップでは意図的に先輩世代をオブザーバーとして設定していたため、ユース世代と先輩世代との対話機会が希薄であった
- 「ユースフォーラム」としつつも、先輩世代の積極的な参加を促し、ユース世代と先輩世代との対話機会の創出により相互理解を育む仕組みが必要

今年度の対応

- 全体会②のトーク・フォークダンス等で「キャリア」を軸に対話を促進

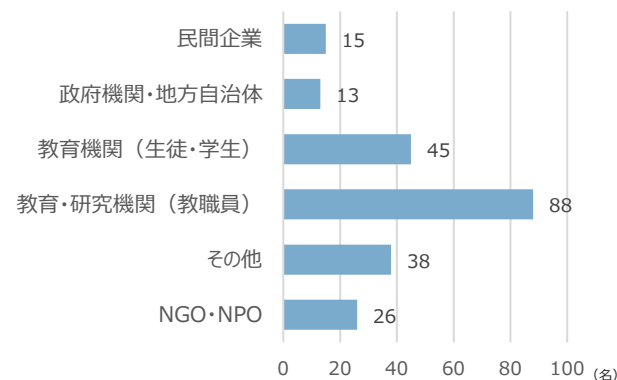
3. ユース世代・先輩世代含めて出席者の多様性を豊かにすること

- ユースフォーラムの参加者は、教育・研究機関の教職員が圧倒的に多く、次いで生徒・学生という実態
- ユース世代によるユネスコ活動の活性化という目的を達成するにはより多様な属性の人々（政府機関、民間企業、NGO・NPO等）との関係構築も必要

今年度の対応

- 本日のご報告「民間企業との連携」にて詳細をご説明

ユースフォーラム全体の参加者属性



ユースフォーラム開催の中長期的な計画

ユネスコ活動に関心のあるユースがつながれる場をつくる、という中長期的な目的に向けて ユースフォーラムは段階的に発展させていく

ユースによるユネスコ活動の現状と課題：ユネスコ活動に関わっているユース同士が中長期的につながり、活動を継続化・活発化できていない

- ユネスコ活動に取り組むユースは一定数いるものの、高校・大学等を卒業すると活動・交流の場が途絶える傾向にある（ユネスコスクール、大学ユネスコクラブ、地域ユネスコ協会等、各世代内でのネットワーク・交流は存在するがネットワーク間の交流が限定的であることが一つの要因）
- ユネスコ活動経験や知見を有するユースは一定数いるものの、現時点で活動していないユース、興味関心はあるけど活動する場がないユースが多い

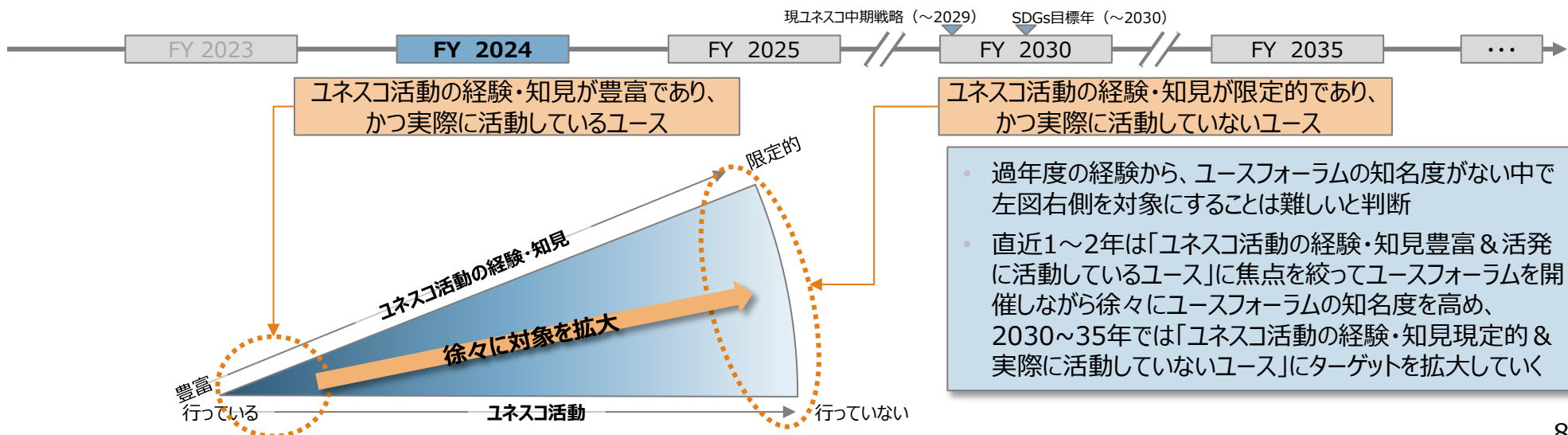
ユースフォーラム開催の中長期的な目的：ユネスコ活動に関心のあるユースがつながれる場をつくる

- 多岐にわたるユネスコ活動に取り組むユースのネットワークの構築
- 解釈次第で「ユネスコ」活動ともなり得る関連活動に取り組むユースを取り込む場づくり
- 高校・大学・社会人の世代を超えて、ユネスコ活動に継続的に参画できる仕組みの構築
- ユネスコ活動に取り組む世界各国のユースとのグローバルな交流の場の構築

次世代ユネスコ国内委員会の強み

- 文部科学省による公的な後ろ盾
- 委員の横縦の広がり（縦：幅広い世代の委員/横：幅広いネットワーク）
- 国内外・全国各地に広がる活動拠点

ユースフォーラム開催の中長期的発展イメージ（主にターゲットの設定）



本日のアジェンダ

ユースフォーラム開催の計画

民間企業との連携

これまで、活動の連携先やユースフォーラム出席者は主にユネスコ活動に関わる組織・団体であったが、今後活動の規模・影響範囲を拡大するためには民間企業との連携が必要

■ 民間企業との連携促進を目指すに至った経緯

- 次世代ユネスコ国内委員会として、これまでの連携主体は**特定のユネスコ関連組織**や**教育機関**、**国際機関**等に**限定**されていた（活動の連携先やユースフォーラムの出席者など）
- **ユースフォーラム*以外の活動**（ユネスコ関係組織に訪問するための旅費・宿泊費、イベント開催費、プロジェクト運用費、広報費用など）は、基本的に**各委員の自費**であるため、**コスト面が障壁となり活動が自ずと制限**されてきた。今後、活動規模を拡大するためには**外部から活動資金を獲得**する必要がある

■ 社会課題解決に対する民間企業のトレンド

- 短期的な株主利益の最大化が最も重要という「株主資本主義」から、国際社会・地域社会、取引先、顧客、従業員等の多様なステークホルダーの利益に配慮した経営が重要という「**ステークホルダー資本主義**」が**主流**になっている
- こうしたトレンドの変化により、民間企業は多様な**ステークホルダーとの連携による社会課題の解決（SDGsへの貢献等）**に対して以前より**前向き**になっている

民間企業のステークホルダーとなり、企業のニーズと合致した連携を通じて活動規模を拡大したい

今年度から民間企業に対して連携の依頼を始める